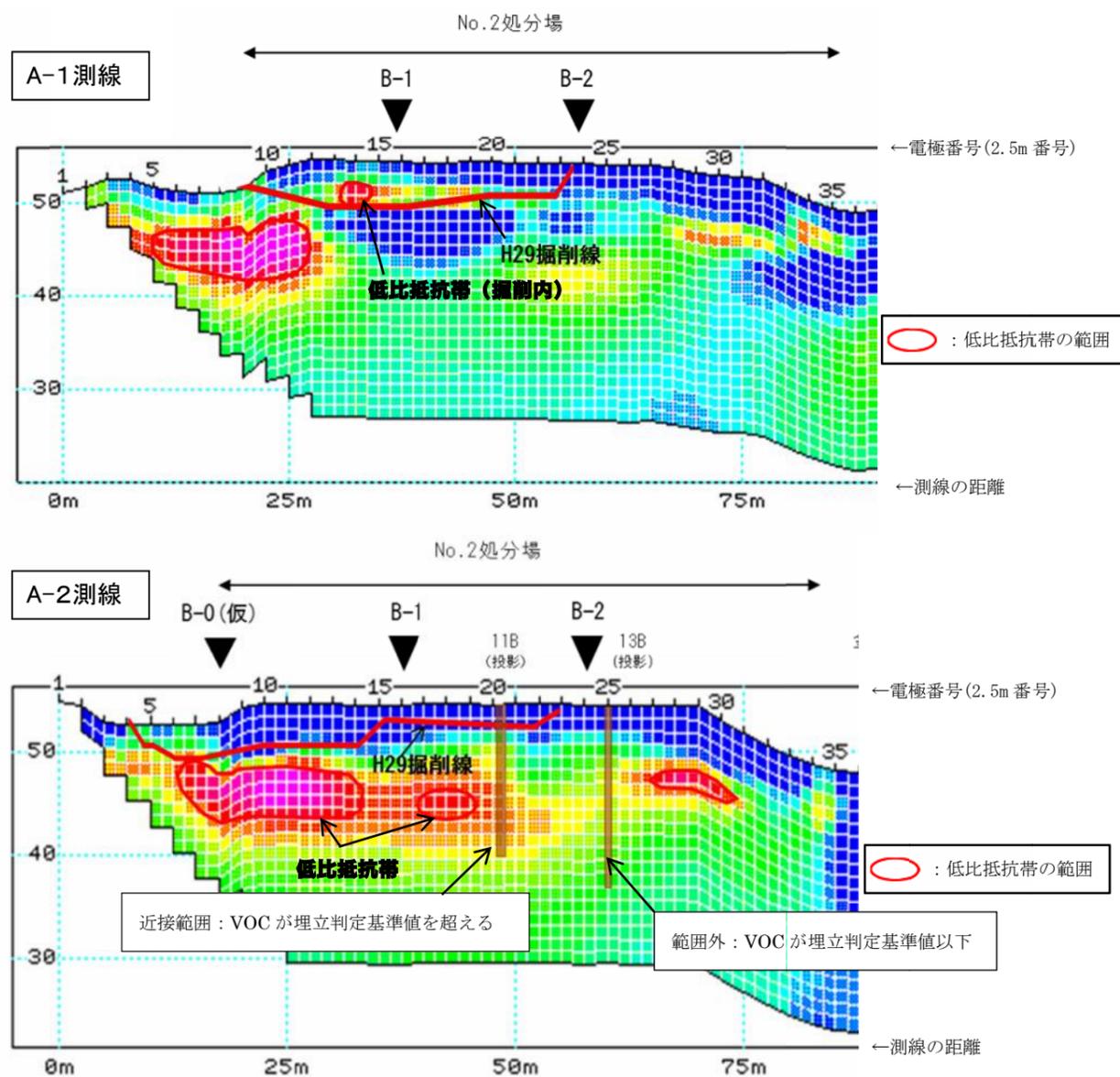


## 4 データの分析結果

### (1) 非破壊調査との比較

#### ① 高密度電気探査

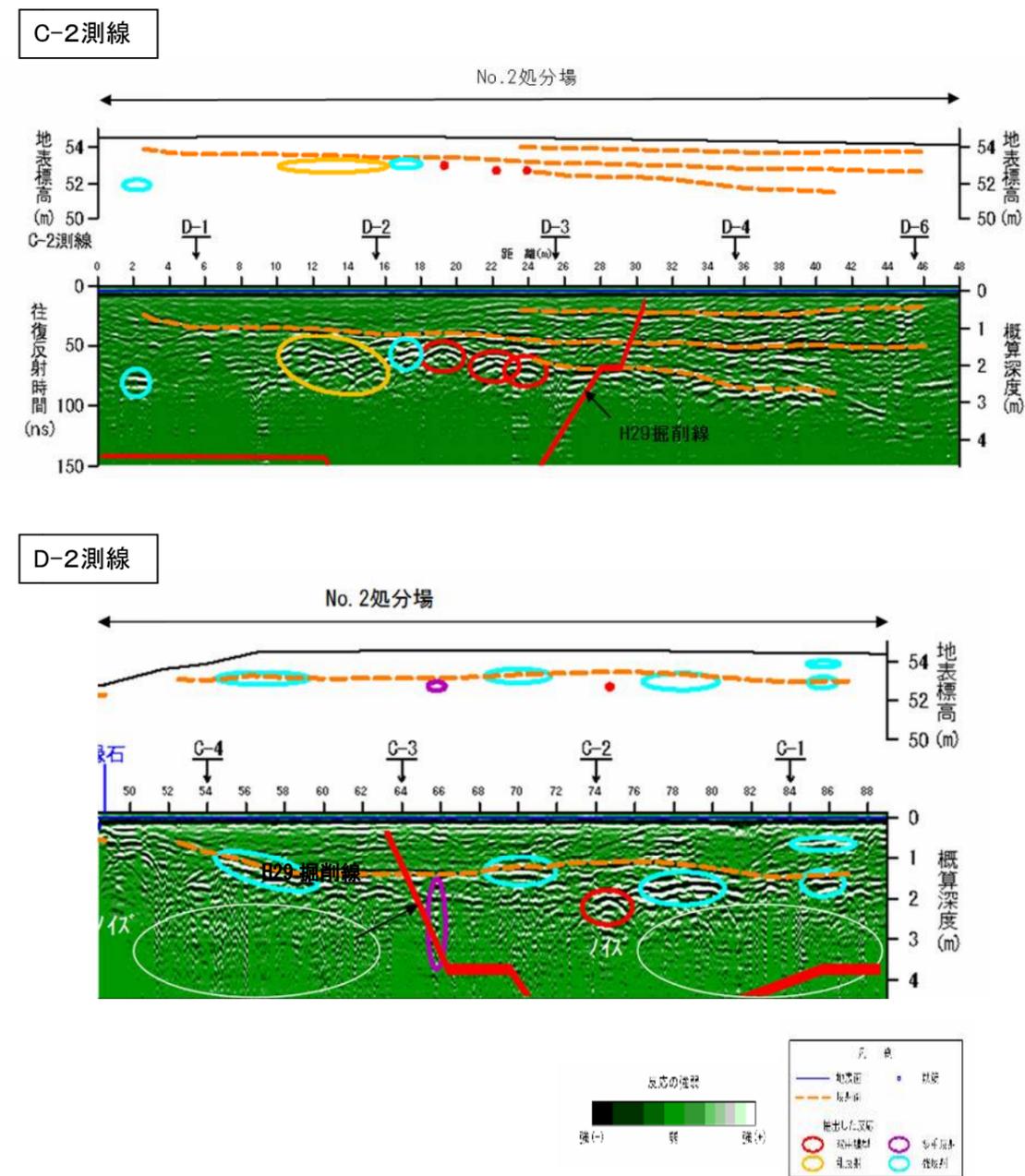
- 過去の解析結果では、「ドラム缶等が埋め立てられている場所の下位が低比抵抗帯となっている傾向が見られる」としていたが、測線上において「掘削によるドラム缶の位置」と「低比抵抗帯の位置」には、同様の傾向は見られなかった。
- 「廃棄物中のVOCが不検出又は埋立判定基準以下であったボーリング地点」は、「低比抵抗帯に当てはまらない位置」であり、比較的相関が見られた。



図の赤線で囲まれた部分が廃棄物等の影響と考えられる低比抵抗帯の範囲で、「ドラム缶が埋め立てられている場所の下位が低比抵抗帯となっている傾向が見られる」との解析結果であったが、今回の掘削では、その位置にドラム缶は確認されなかった。

#### ② 地中レーダー探査

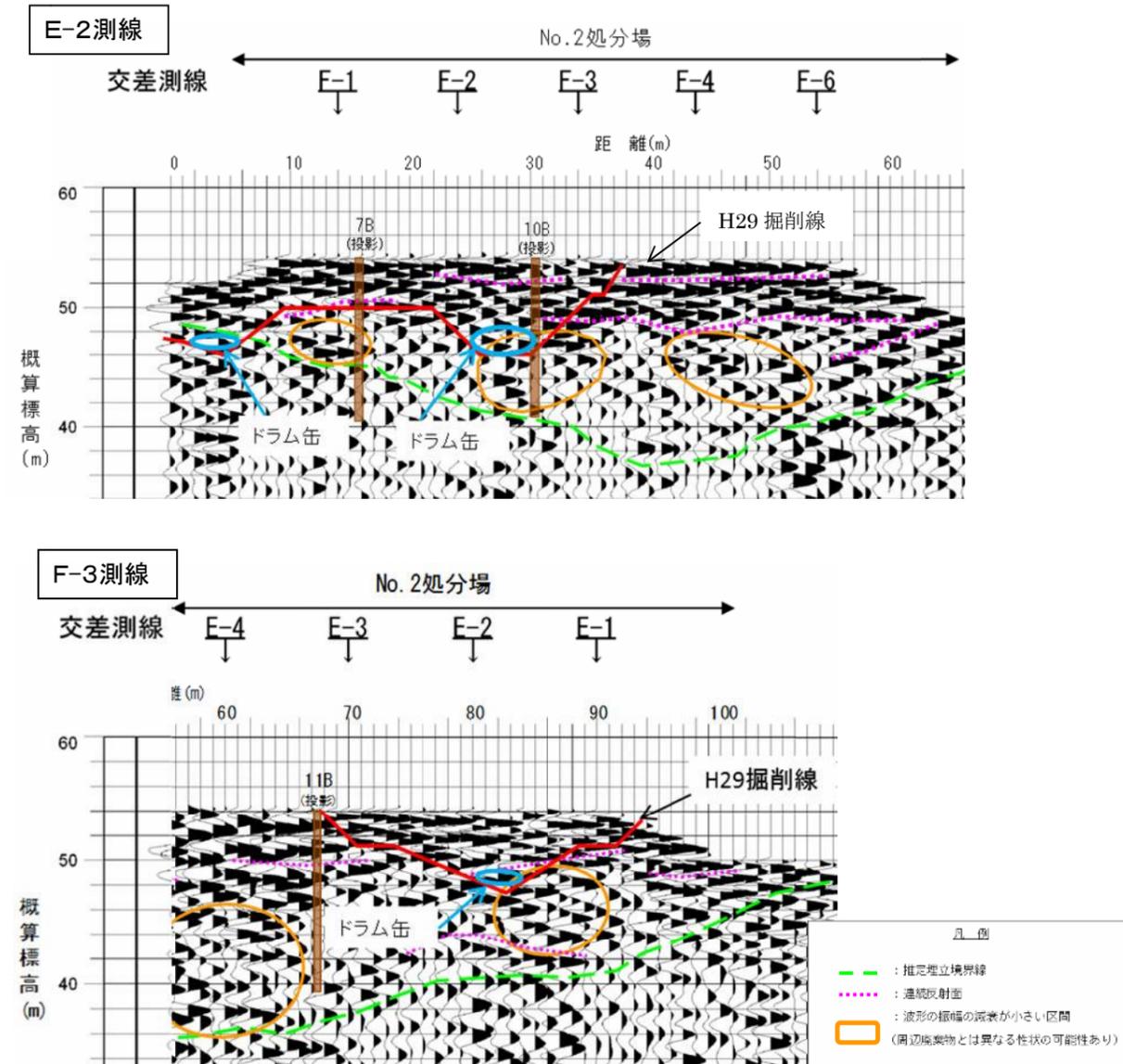
- 探査の解析深度が4 m程度であり、今回ドラム缶が発見された深度より浅いことから、データの比較はできなかった。



乱反射（オレンジ色の線で囲まれた部分）、強反射（水色の線で囲まれた部分）の箇所にドラム缶が存在する可能性が高いとの解析結果であった。地中レーダー探査の解析深度は地表面から4 m程度であったが、東側掘削箇所でドラム缶が確認された深度は地表面から5 m～9 mだったことから、データを比較することはできなかった。

### ③ 浅層反射法地震探査

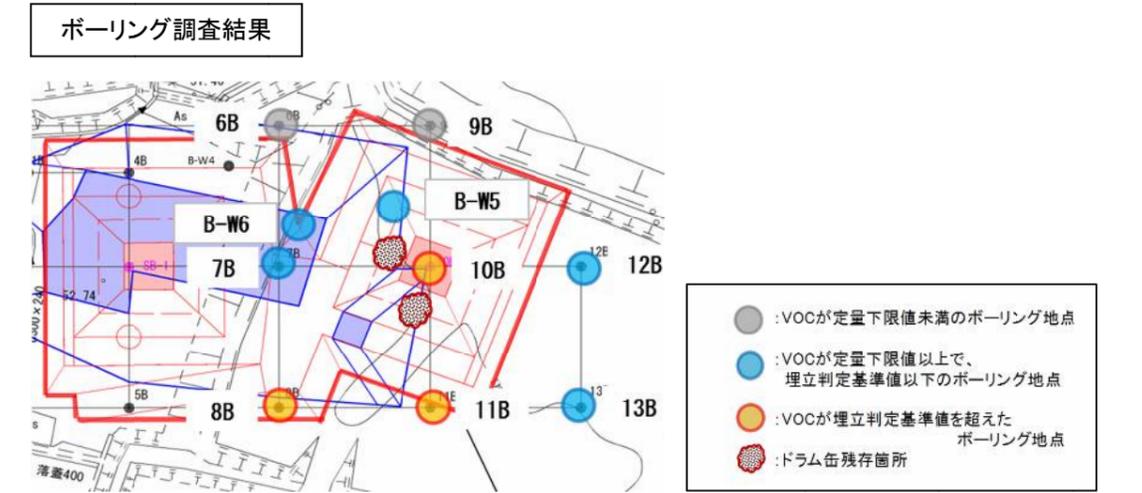
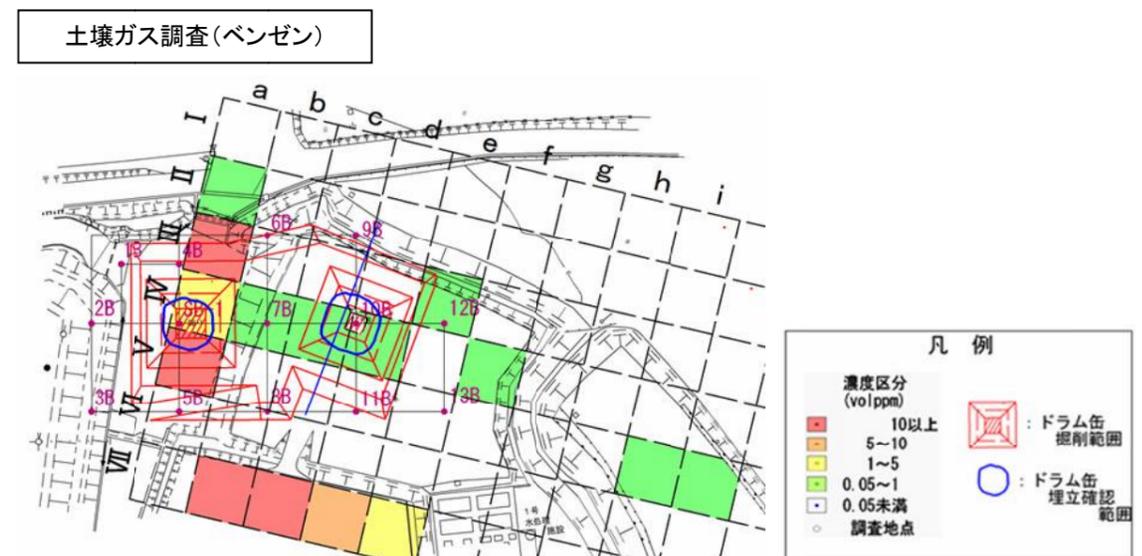
- 測線上の「掘削によるドラム缶の位置」及び「ボーリングコアの廃棄物中のVOCが埋立判定基準を超えていた位置」と「波形の振幅の減衰が小さい区間の位置」には、明らかな相関は見られなかった。



- 図面の橙色の線で囲まれた区間は、「波形の振幅の減衰が小さい区間であり、周辺廃棄物とは異なる性状の可能性のある区間（ドラム缶が埋め立てられている可能性がある場所）」との解析結果であった。今回の掘削では、東側掘削箇所でのドラム缶確認位置がE-2測線とF-3測線の橙色の線で囲まれた区間と重なっていたが、西側掘削箇所のドラム缶確認位置（E-2測線上）は重なっていなかった。
- ボーリング調査結果との比較では、E-2測線にある7B地点（ベンゼンが低濃度で検出）は橙色の線で囲まれた区間と重なっているが、F-3測線にある11B（ベンゼン等が埋立判定基準を超えて検出）は橙色の線で囲まれた区間に重なっていないことから、ボーリングコアの廃棄物のVOCとオレンジ色の部分との重なりには相関は見られなかった。

### ④ 土壌ガス調査

- 掘削箇所は、土壌ガス調査においてベンゼンが検出された地点ではあるが、「ボーリングコアの廃棄物中のVOCが埋立判定基準を超えていた地点」と「土壌ガス調査でVOCが検出された地点」には、明らかな相関は見られなかった。



西側（SB-1）及び東側（10B）の掘削箇所は、いずれも土壌ガス調査においてベンゼンが検出された地点である。ベンゼンが埋立判定基準を超えて検出されている10Bの南側に位置する8B、11B地点では、土壌ガス調査ではベンゼンが検出されていないことから、土壌ガス調査とベンゼンが埋立判定基準を超えたボーリング地点には、明らかな相関は見られなかった。

(2) ボーリング調査との比較

- 残存するドラム缶の南側にあるボーリング地点（8B、11B）では、VOCが埋立判定基準を超えて検出されており、また、11Bで検出された廃棄物中のVOCは、掘削箇所の10Bと概ね一致していることから、掘削法面の南側に残存するドラム缶は、さらに8B及び11B方向に続いている可能性があると考えられる。

調査年度	孔番	採取深度(GL-m)		標高(ELm)		テトラクロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	ジクロロメタン	1,2-ジクロロエタン	シス-1,2-ジクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン
		上端	下端	地盤標高	上端							
26	8B	4.5	~ 4.8	54.58	50.08	~	49.78	-	-	-	0.01	-
		9.0	~ 9.5	54.58	45.58	~	45.08	-	-	0.009	0.11	0.06
		11.8	~ 12.0	54.58	42.78	~	42.58	-	-	-	-	-
	10B	4.3	~ 4.6	54.16	49.86	~	49.56	-	-	-	-	-
		7.23	~ 7.55	54.16	46.93	~	46.61	0.1	0.03	0.063	0.36	3.1
		4.0	~ 4.2	54.37	50.37	~	50.17	-	-	-	-	-
11B	6.2	~ 6.5	54.37	48.17	~	47.87	0.21	0.3	0.058	5.5	0.57	
	10.7	~ 11.0	54.37	43.67	~	43.37	-	-	-	-	0.01	0.24
埋立判定基準						0.1	3	0.2	0.04	0.4	0.1	0.5
単位						mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L

※ 赤字:埋立判定基準値を超過  
青字:検出値  
[-]:定量下限値未満のデータ

- 残存するドラム缶の西側にあるボーリング地点（B-W6、7B）及び北側にあるB-W5では、廃棄物中のベンゼンが0.01mg/L(埋立判定基準:0.1mg/L)の濃度で検出されているものの、その他のVOCは検出されていないことから、掘削法面の西側に残存するドラム缶は、北側及び西側方向への広がり小さいと考えられる。

調査年度	孔番	採取深度(GL-m)		標高(ELm)		ベンゼン	1,4-ジオキサン		
		上端	下端	地盤標高	上端			下端	
26	7B	3.9	~ 4.0	54.41	50.51	~	50.41	-	-
		6.2	~ 6.4	54.41	48.21	~	48.01	0.01	0.08
		10.6	~ 10.8	54.41	43.81	~	43.61	-	-
18	B-W5	4.7	~ 4.9	54.52	49.82	~	49.62	0.01	-
	B-W6	7.6	~ 7.8	54.64	47.04	~	46.84	0.01	-
埋立判定基準						0.1	0.5		
単位						mg/L	mg/L		

※ 赤字:埋立判定基準値を超過  
青字:検出値  
[-]:定量下限値未満のデータ

(3) まとめ

- 平成16、17年度の非破壊調査結果と今回の掘削状況等を比較したが、明らかな相関は見られなかったことから、ドラム缶の広がりや深さを確認するためには、ボーリングによる調査が有効である。
- 非破壊調査結果と平成18年度の重機試掘調査結果を比較した際の「埋立状況についての考察」では、No.2処分場の北側や東側にはドラム缶が埋め立てられている可能性は小さいとの結果であった。
- 平成26年度のボーリング調査結果から、掘削法面の南側に残存するドラム缶は、さらに南側に続いている可能性がある。なお、掘削法面の西側に残存するドラム缶は、北側及び西側方向への広がり小さいと考えられる。

